

計算人文社会学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
計算人文社会学研究演習Ⅰ	計算人文社会学の基礎	2	瀧川 裕貴	前期 火曜日 3講時	
計算人文社会学研究演習Ⅱ	計算人文社会学の応用	2	瀧川 裕貴	後期 火曜日 3講時	

科目名：計算人文社会学研究演習 I / Computational Humanities and Social Sciences(Advanced Semina

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：瀧川 裕貴

コード：LM12308, 科目ナンバリング：LIH-OS0612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：計算人文社会学の基礎

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Computational Humanities and Social Sciences

3. 授業の目的と概要：この授業では、社会学、およびその関連分野における計算人文社会学についての最新の研究を読み、受講者どうしのディスカッションを通じて理解や批判的検討を行う。あわせて、受講者自身が計算人文社会学の研究プロジェクトに取り組み、適宜進捗を報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, we will read the latest research on computational humanities and social sciences in sociology and related fields, and discuss it with each other for understanding and critical review. In addition, students will work on their own research projects in computational humanities and social sciences, and report on their progress.

5. 学習の到達目標：1) 計算人文社会学の理論と方法について十分な理解と批判的検討を行う能力を身につける。

2) 計算人文社会学の方法を用いた学術的論文を作成するための基本的能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1) Acquire sufficient understanding and ability to critically examine theories and methods of computational humanities social sciences.

2) Acquire the basic skills to write academic papers using computational humanities social sciences methods.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業の内容は二つの部分からなる。第一の部分は、既存研究の検討と内容報告である。具体的な文献については、受講者が各自の関心に従って選択する。第二の部分は自らの計算人文社会学に関する研究計画と計画に基づいたデータ収集や分析の結果を発表してもらう。

8. 成績評価方法：

授業での発表 (50%)、出席・ディスカッションへの参加 (50%)

9. 教科書および参考書：

参考書：M. サルガニック『ビット・バイ・ビット』(2019, 瀧川裕貴ほか訳 有斐閣)

10. 授業時間外学習：発表の際には、文献の内容を紹介し、自らの疑問やコメントをまとめた資料を用意する必要がある。また研究計画の準備やデータ収集・分析については、授業時間外に作業することが必要となる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：計算人文社会学研究演習Ⅱ／ Computational Humanities and Social Sciences(Advanced Semina

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：瀧川 裕貴

コード：LM22309, 科目ナンバリング：LIH-OS0613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：計算人文社会学の応用

2. Course Title (授業題目)：Advanced Computational Humanities and Social Sciences

3. 授業の目的と概要：この授業では、社会学、およびその関連分野における計算人文社会学についての最新の研究を読み、受講者どうしのディスカッションを通じて理解や批判的検討を行う。あわせて、受講者自身が計算人文社会学の研究プロジェクトに取り組み、適宜進捗を報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, we will read the latest research on computational humanities and social sciences in sociology and related fields, and discuss it with each other for understanding and critical review. In addition, students will work on their own research projects in computational humanities and social sciences, and report on their progress.

5. 学習の到達目標：1) 計算人文社会学の理論と方法について十分な理解と批判的検討を行う能力を身につける。

2) 計算人文社会学の方法を用いた学術的論文を作成するための基本的能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1) Acquire sufficient understanding and ability to critically examine theories and methods of computational humanities social sciences.

2) Acquire the basic skills to write academic papers using computational humanities social sciences methods.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業の内容は二つの部分からなる。第一の部分は、既存研究の検討と内容報告である。具体的な文献については、受講者が各自の関心に従って選択する。第二の部分は自らの計算人文社会学に関する研究計画と計画に基づいたデータ収集や分析の結果を発表してもらう。

8. 成績評価方法：

授業での発表 (50%)、出席・ディスカッションへの参加 (50%)

9. 教科書および参考書：

参考書：M.サルガニック『ビット・バイ・ビット』(2019, 瀧川裕貴ほか訳 有斐閣)

10. 授業時間外学習：発表の際には、文献の内容を紹介し、自らの疑問やコメントをまとめた資料を用意する必要がある。また研究計画の準備やデータ収集・分析については、授業時間外に作業することが必要となる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし